講義概要

SYLLABUS

2022 年度

鍼 灸 科 ―――― 3 年次

【 専門基礎分野 】

生理学Ⅲ

解剖学Ⅳ

臨床医学各論Ⅱ

病理学Ⅱ

関係法規

社会はき学

【 専門分野 】

鍼灸理論Ⅱ

東洋医学臨床論Ⅱ

リハビリテーション医学Ⅱ

東洋医学はり･きゅう実技Ⅱ

臨床実習前施術実技試験

はりきゅう臨床実技

臨床実習Ⅲ

臨床実習Ⅳ

基礎医学総合講座Ⅰ（解剖）

基礎医学総合講座Ⅱ（生理）

基礎医学総合講座Ⅲ（衛生）

臨床医学総合講座

東洋医学総合講座

総合経絡経穴学

医療概論

学校法人エイジェック学園

スポーツ健康医療専門学校

2022 年度　［ 分 野 ］ 専門基礎　／ 人体の構造と機能

［授業科目］ **生 理 学 Ⅲ**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	宮森 美香	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

［授業目標］

1･2 年次に学習した生理学の総復習を行うことにより、個々の理解不足分野を確認することができる。生理学を体系的に学ぶことで国家試験にも対応できるようになる。

［評価方法］

後期認定試験において 60 点以上を取ることを基本に授業の参加度なども参考に総合評価により単位取得とする。

［教科書］

生理学　第 3 版

［履修の条件・留意点］

・講義要綱を確認し、教科書を読むなど予習をしたうえで授業を受けることが大切です。作る。
・生理学ではポイントごとに覚えることも大切ですが、単元を超えた複合的な考え方も大切となります。一度単元が終わったら終了ではありません、そのことを意識しながら授業を受けること。
・授業の進行においては、板書とスライドを臨機応変に用います。各自必要なことはメモし、まとめること。
・各省が終了した次の時間には授業初めに小テストを行います。理解していない問題は復習に時間をかけること。

授業計画 ；回数/講義内容

1回	第 1 章　生理学の基礎（細胞）	11回	第 4 章　消化と吸収（消化液の働きと調節）
2回	生理学の基礎（体液・物質の移動）	12回	消化と吸収（消化管の動きと調節）
3回	生理学の基礎（ホメオスタシス）	13回	消化と吸収（吸収について）
4回	第 2 章　循環（血液：血漿の機能）	14回	第 5 章　代謝（五大栄養素の働き）
5回	循環（血液：赤血球・血小板、白血球）	15回	代謝（栄養素とエネルギー代謝）
6回	循環（血液：生体防御（第 14 章含む）、血液型）	16回	第 6 章　体温（体温調節と発汗）
7回	循環（心臓の機能・刺激伝導系・心電図）	17回	第 8 章　内分泌（ホルモンの特徴）
8回	循環（心周期、循環の調節）	18回	内分泌（各ホルモンの働き）
9回	第 3 章　呼吸（呼吸のメカニズム）	19回	内分泌（各ホルモンの働き）
10回	呼吸（呼吸の調節）	20回	まとめと解説

2022 年度　［ 分 野 ］ 専門基礎　／ 人体の構造と機能

［授業科目］ **解 剖 学 Ⅳ**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	木原 和彦	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師、柔道整復師、の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

［授業目標］

解剖学Ⅴでは、あらゆる臨床医学及び東洋医学、実習の最も基礎となる人体の基本構造および構成要素について、再復習するだけでなく、その構造や形態が形成される過程に存在する法則について発生学的な知識を交えながら臨床に役立つよう理解を深める。

［評価方法］

国試受験認定試験と前期末試験、卒業試験の成績と授業への参加度を基準として、総合的な評価を行う。

［教科書］

解剖学　第 2 版　社団法人東洋療法学校協会編　医歯薬出版

［履修の条件・留意点］

1. 平素の授業態度（机上の飲食物、携帯の使用、着信音など）により単位未修得となることがあるので留意のこと
2. 遅刻又は欠席で、減点されるので留意のこと

授業計画 ；回数/講義内容

1回	細胞の要点/理解度確認	11回	口腔.咽頭の要点/理解度確認
2回	組織の要点/理解度確認	12回	食道.胃の要点/理解度確認
3回	器官、外皮の要点/理解度確認	13回	小・大腸の要点/理解度確認
4回	血管の要点/理解度確認	14回	消化腺の要点/理解度確認
5回	心臓の要点/理解度確認	15回	腎臓の要点/理解度確認
6回	動脈の要点/理解度確認	16回	尿路系の要点/理解度確認
7回	静脈の要点/理解度確認	17回	男性生殖器系の要点/理解度確認
8回	リンパ系の要点/理解度確認	18回	男性生殖器系の要点/理解度確認
9回	鼻腔.喉頭の要点/理解度確認	19回	女性生殖器系の要点/理解度確認
10回	気管.肺の要点/理解度確認	20回	女性生殖器系の要点/理解度確認

2022 年度　［ 分 野 ］ 専門基礎　／ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

［授業科目］ **臨床医学各論 Ⅱ**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	高野 弘仁	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師、柔道整復師の教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

［授業目標］

多くの疾患の成り立ちや特徴を把握して、疾患の鑑別と西洋医学的診断を修得する。そして、はり師きゅう師として卒後の臨床に繋げられる知識を修得する。

［評価方法］

前期/後期国試受験手続認定試験、卒業試験の全ての試験において毎回 60 点以上を取ることを基本に、総合試験、授業の出欠席なども参考に総合評価により単位取得とする。

［教科書］

東洋療法学校協会編 「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

［参考書］

医学教育出版「病態生理できった内科学」

［履修の条件・留意点］

2年次同様プリントを中心に授業を進行する。

授業計画 ；回数/講義内容

1回	血液疾患（赤血球疾患）	11回	神経疾患（その他の変性疾患）
2回	血液疾患（赤血球疾患）	12回	神経疾患（認知症・筋疾患）
3回	血液疾患（白血球疾患）	13回	神経疾患（末梢神経疾患）
4回	血液疾患（リンパ網内系疾患）	14回	神経疾患（神経痛・機能性疾患）
5回	血液疾患（出血性素因）	15回	膠原病（関節リウマチ・SLE）
6回	神経疾患（脳血管疾患）	16回	膠原病（強皮症・ベーチェット病）
7回	神経疾患（脳血管疾患）	17回	膠原病（皮膚筋炎・多発動脈炎）
8回	神経疾患（感染性疾患）	18回	膠原病の要点/理解度確認
9回	神経疾患（脳・脊髄腫瘍）	19回	その他の領域（一般外科・麻酔科）
10回	神経疾患（基底核変性疾患）	20回	その他の領域（婦人科疾患）

2022 年度　［ 分 野 ］ 専門基礎　／ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

［授業科目］ **病 理 学 Ⅱ**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	前川 秀朗	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	前 期	･---	授業形態	講 義	---

［授業目標］

「病理学Ⅰ」の再確認とあらゆる臨床医学及び東洋医学、実習の最も基礎となる内容を総合的に学び、はり師きゅう師として卒後の臨床に繋げられる知識を修得することを目標とする。

［評価方法］

前期認定試験、後期認定試験、卒業試験の全ての試験において 60%以上の点数を取ることを基本に、授業の参加度も含め単位取得とする。

［教科書］	［参考書］
教科書「病理学概論」、プリント資料	特になし

授業計画 ；回数/講義内容

1回	免疫異常他	11回	腫瘍②
2回	免疫異常他	12回	代謝異常
3回	進行性病変	13回	生活習慣病
4回	退行性病変　循環障害①	14回	先天性異常
5回	循環障害②	15回	病因他
6回	炎症①	16回	感染症他
7回	炎症②	17回	「循環障害」「代謝障害･退行性病変」の要点/理解度確認
8回	免疫異常①	18回	「進行性病変」「炎症」の要点/理解度確認
9回	免疫異常②	19回	「腫瘍」 の要点/理解度確認
10回	腫瘍①	20回	「免疫異常」「先天性異常」の要点/理解度確認

2022 年度　［ 分 野 ］ 専門基礎　／ 保健医療福祉とはり・きゅうの理念

［授業科目］ **関 係 法 規** **3学年**

［基本情報］

担当教員	宮森 美香	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

［授業目標］

はり師きゅう師として活動する際の業務範囲を把握するとともに、禁止行為などを確認する。免許制度の仕組みや実際の手続き等を確認し、免許を受けてから必要な事項に関して学ぶ。また、医療従事者として理解しなければいけない他の医療従事者の職域を理解し修得する。

［評価方法］

前期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において 60 点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

［教科書］

「関係法規　第 7 版 （東洋療法学校協会編）」 医歯薬出版　他

［参考書］

特になし

授業計画 ；回数/講義内容

1回	序論　法とは何か、意義、体系	11回	「医療従事者の倫理」施術者としての倫理
2回	「あはき法」目的、免許	12回	「現代の医学と医療」現代医学の課題
3回	「あはき法」免許、試験	13回	「関係法規」医療法、医師法
4回	「あはき法」業務	14回	「関係法規」その他医療従事者関係法規
5回	医療従事者、医療施設	15回	「関係法規」その他医療従事者関係法規
6回	国民医療費、医療保険	16回	「関係法規」薬事法規
7回	「あはき法」施術所、両罰規定	17回	「関係法規」衛生関係法規
8回	「あはき法」指定試験機関	18回	「関係法規」社会福祉、社会保険関係法規
9回	公的医療負担、介護保険	19回	「あはき法」の要点/理解度の確認
10回	「医療従事者の倫理」医療倫理	20回	「その他医療法規」の要点/理解度の確認

2022 年度　［ 分 野 ］ 専 門　／ 臨床はり学　臨床きゅう学

［授業科目］ **鍼 灸 理 論 Ⅱ**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	前川　秀朗	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	---	後　期	授業形態	講　義	---

［授業目標］

「鍼灸理論Ⅰ」で学んだことを整理、発展させ、あらゆる臨床医学及び東洋医学、実習の最も基礎となる内容を総合的に学び、はり師きゅう師として必要な知識を修得することを目標とする。

［評価方法］

前期認定試験、後期認定試験、卒業試験の全ての試験において 60%以上の点数を取ることを基本に、授業の参加度も含め単位取得とする。

［教科書］

教科書「はりきゅう理論」、プリント資料

［参考書］

特になし

授業計画　;回数/講義内容

1回	鍼灸医療事故の事例	11回	体性感覚温度覚まとめ/理解度確認
2回	古代九鍼、毫鍼	12回	体性感覚その他の感覚まとめ
3回	刺鍼の方式と鍼尖形状	13回	痛み総論まとめ/理解度確認
4回	刺鍼の術式	14回	急性痛まとめ/理解度確認
5回	灸の材料と特徴	15回	慢性痛の種類まとめ/理解度確認
6回	灸術の種類	16回	慢性痛の仕組みまとめ/理解度確認
7回	体性感覚総論まとめ/理解度確認	17回	反射の分類
8回	体性感覚触覚まとめ/理解度確認	18回	鍼刺激と反射の仕組みまとめ
9回	体性感覚痛覚まとめ/理解度確認	19回	鍼鎮痛の仕組みまとめ
10回	体性感覚温度覚まとめ/理解度確認	20回	鍼鎮痛とその他の鎮痛について

2022 年度　［ 分 野 ］ 専門基礎　／ 臨床はり学　臨床きゅう学

［授業科目］ **東洋医学臨床論Ⅱ**　**3学年**

［基本情報］

担当教員	岡野　亜希子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後　期	授業形態	講　義	---

［授業目標］

1年次、2年次に学んだ東洋医学の知識を復習すると同時に、授業時間内において学んだ部分に対して小テストなどで知識の確認を行い、総合的な理解を深めることを目標とする。
東洋医学概論で学んだ知識を生かし、症候別・ストレスによってどのような状態があるのか理解すると同時に、どのように治療方針を立て、治療を行っていくかを学ぶ。

［評価方法］

前期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において 60 点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

［教科書］

教科書「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」 第 1 版 （東洋療法学校協会編）」 医道の日本社

［参考書］

特になし

授業計画 ；回数/講義内容

1回	総　論	11回	筋　肉　③
2回	病　証　①	12回	筋　肉　④
3回	病　証　②	13回	神　経　①
4回	病　証　③	14回	神　経　②
5回	病　証　④	15回	神　経　③
6回	病　証　⑤	16回	神　経　④
7回	六十九難	17回	適応疾患①
8回	要　穴	18回	適応疾患②
9回	筋　肉　①	19回	その他①
10回	筋　肉　②	20回	その他②

2022 年度　［ 分　野 ］ 専門基礎　／ はり・きゅう社会学

［授業科目］ **リハビリテーション医学Ⅱ** **3学年**

［基本情報］

担当教員	松澤　孝司	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後　期	授業形態	講　義	---

［授業目標］

はり師きゅう師として必要なリハビリテーションの知識、方法について学ぶ。現在では広い意味でのリハビリテーションに関わることが多くなってきており、単に疾病に対する治療だけではなく、障害から社会復帰までの知識や技術を身に付けることを目的としている。病院との連携に必要なリハビリテーションに関する知識や用語を理解することを目的とする。

［評価方法］

前期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において 60 点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

［教科書］

「リハビリテーション医学　第 3 版　（東洋療法学校協会編）」 医歯薬出版

［参考書］

特になし

授業計画　：回数/講義内容

1回	脳卒中のリハ（概説、評価）	11回	脊髄損傷のリハ（ケアとリスク管理）
2回	脳卒中のリハ（急性期）	12回	切断のリハ（原因と分類）
3回	脳卒中のリハ（回復期リハ）	13回	切断のリハ（合併症）
4回	脳卒中のリハ（言語治療、リスク管理）	14回	切断のリハ（下肢切断の特徴）
5回	脳卒中のリハ（アフタケア）	15回	切断のリハ（上肢切断の特徴）
6回	脳卒中のリハ（リハのゴール）	16回	切断のリハ（アフタケア）
7回	脊髄損傷のリハ（概説、機能障害）	17回	小児リハ（脳性小児麻痺の評価）
8回	脊髄損傷のリハ（急性期リハ）	18回	小児リハ（小児発達の評価）
9回	脊髄損傷のリハ（回復期リハ）	19回	小児リハ（脳性小児麻痺のリハ）
10回	脊髄損傷のリハ（社会復帰期リハ）	20回	小児リハ（その他の小児リハ）

2022 年度　　［ 分 野 ］ 専 門　　/ 実 習

［授業科目］

東 洋 医 学 はり・きゅう実 技Ⅱ

3学年

［基本情報］

担当教員	原 オサム	単位数	2	時間数	60
実務/資格	豊富な臨床経験鍼を持つ鍼灸院院長が指導、積聚会会長 /はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	前 期	後 期	授業形態	---	実 習

［授業目標］

東洋医学の立場から、どのような病症にも対応できるように、治療法・特殊鍼灸法を学習する。
また、病に対する“考える力”を修得する。

［評価方法］

①実技テスト　②筆記テスト　③出欠席状況　④授業態度・参加意欲
等による総合評価とする。

［教科書］

はりきゅう実技〈基礎編〉(医道の日本社)

［参考書］

『難経』(各出版社)、『東洋医学講座』第1巻、第10巻(緑書房)
、『カラーアトラス取穴法』(医歯薬出版)

［履修の条件・留意点］

毎回の授業ごとに内容・解説が変わります。
遅刻・欠席があると授業の理解、修得が困難になりがちです。準備・復習と体調管理に注意して、休まず出席すること。
卒業後の実際の現場や臨床実習に直接関係していく内容なので、つねに復習と技術の鍛錬を計ること。

授業計画　;回数/講義内容/形式		
1回	ガイダンス・2年次の復習、精気について	実習
2回	臨床実習に向けての実技練習	実習
3回	臨床実習に向けての実技練習	実習
4回	臨床実習に向けての実技練習	実習
5回	臨床実習に向けての実技練習	実習
6回	臨床実習に向けての実技練習	実習
7回	臨床実習に向けての実技練習	実習
8回	臨床実習に向けての実技練習	実習
9回	臨床実習に向けての実技練習	実習
10回	はり実技まとめ	試験/実習
11回	きゅう実技まとめ	試験/実習
12回	実技まとめ講評	実習
13回	特殊鍼灸法（接触鍼・散鍼について）・実技	実習
14回	特殊鍼灸法（鍉鍼・円鍼について）	実習
15回	鍉鍼・円鍼の実技	実習
16回	特殊鍼灸法（知熱灸について）	実習
17回	知熱灸の実技	実習
18回	特殊鍼灸法（皮内鍼・円皮鍼について）	実習
19回	皮内鍼・円皮鍼の実技	実習
20回	特殊鍼灸法（長鍼・太鍼について）	実習
21回	長鍼・太鍼の実技	実習
22回	特殊鍼灸法（灸頭鍼について）	実習
23回	灸頭鍼の実技	実習
24回	特殊鍼灸法（刺絡と吸角について）	実習
25回	特殊鍼灸法（刺絡と吸角について）	実習
26回	特殊鍼灸法（吸角の扱い方について）	実習
27回	吸角の実技	実習
28回	特殊鍼灸法・まとめと実技/総合実技実習	実習
29回	特殊鍼灸法・まとめと実技/総合実技実習	実習
30回	特殊鍼灸法・まとめと実技/総合実技実習	実習

2022 年度　　［ 分 野 ］ 専 門　　/ 実 習

［授業科目］ **臨床実習前施術実技試験**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	岡野　亜希子/石井　彩	単位数	2	時間数	30
実務/資格	豊富な臨床経験を持ち、はり師きゅう師の資格を有する教員が医療面接から治療までの流れを指導する。				
開講学期	---	後　期	授業形態	講　義	---

［授業目標］

臨床実習Ⅲ及び臨床実習Ⅳにおいては、附属臨床施設において、患者様の受け入れから医療面接、理学検査、鑑別診断、病態把握、鍼灸治療法（現代医学的・東洋医学的な鍼灸を中心に）、診療録作成までほとんどの実践的な治療を経験することとなる。この授業では2年生までで分けて学習してきた部分を一定の時間内で実行する能力を修得することとする。鍼灸基礎実技も一定レベルに到達していることが必須となる。

［評価方法］

実技評価（医療面接、理学検査、鑑別診断、病態把握、鍼灸治療法、鍼灸基礎実技）により評価する。

［教科書］

東洋医学概論・東洋医学臨床論（はりきゅう編）・新版経絡経穴概論＜医道の日本社＞

［参考書］

特になし

授業計画　；回数/講義内容

1回	ガイダンス	11回	臨床実習　実践
2回	医療面接について	12回	臨床実習　実践
3回	臨床実習　模擬患者（SP）	13回	臨床実習　実技試験
4回	臨床実習　SP：Simulated Patient	14回	臨床実習　実技試験
5回	臨床実習　SP	15回	臨床実習　実技試験
6回	臨床実習　SP		
7回	臨床実習　SP		
8回	臨床実習　SP		
9回	臨床実習　実践		
10回	臨床実習　実践		

2022 年度　［ 分 野 ］　専 門　／ はり・きゅう実技

［授業科目］

はりきゅう臨床実技　3 学年

［基本情報］

担当教員	前川　秀朗	単位数	1	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	---	後　期	授業形態	---	実　習

［授業目標］

様々な鍼灸治療法のうち比較的短時間で体の変化があらわれ、その変化を施術者、患者とも確認することができ、他の治療法とも併用できる治療法を学び、鍼灸臨床において役立つ技術と知識を修得することを目標とする。

［評価方法］

単位実技認定試験において 60 点以上を取ることを基本とし、授業の参加度も含めて評価し単位を認定する。

［教科書］　［参考書］

プリント資料	特になし

授業計画　;回数/講義内容

1回	体の歪みに対する治療①	13回	体の歪みに対する治療⑫
2回	体の歪みに対する治療②	14回	体の歪みに対する治療⑬
3回	体の歪みに対する治療③	15回	体の歪みに対する治療⑭
4回	体の歪みに対する治療④	16回	体の歪みに対する治療⑮
5回	体の歪みに対する治療⑤	17回	各種治療法①
6回	体の歪みに対する治療⑥	18回	各種治療法②
7回	体の歪みに対する治療⑦	19回	各種治療法③
8回	体の歪みに対する治療⑧	20回	後期試験/まとめと解説
9回	体の歪みに対する治療⑨		
10回	前期試験/まとめと解説		
11回	体の歪みに対する治療⑩		
12回	体の歪みに対する治療⑪		

2022 年度　［ 分 野 ］　専 門　／ はり・きゅう実技（臨床実習含む）

［授業科目］

臨 床 実 習 Ⅲ　3 学年

［基本情報］

担当教員	岡野亜希子/松澤孝司	単位数	1	時間数	45
実務/資格	豊富な臨床経験を持つ、はり師きゅう師の資格を有する教員達が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	---	実 習

［授業目標］

鍼灸臨床の実践を通して医療面接、理学検査、鑑別診断、病態把握、鍼灸治療法（現代医学的・東洋医学的な鍼灸を中心に）、診療録作成などの基本的な臨床能力及び鍼灸院での業務を身につけることを目標とする。

［評価方法］

実技評価およびレポートにより評価する。

［教科書］	［参考書］
東洋医学概論・東洋医学臨床論（はりきゅう編）・新版経絡経穴概論＜医道の日本社＞	特になし

授業計画 ；回数/講義内容

1回	臨床実習	13回	臨床実習
2回	臨床実習	14回	臨床実習
3回	臨床実習	15回	臨床実習
4回	臨床実習	16回	臨床実習
5回	臨床実習	17回	臨床実習
6回	臨床実習	18回	臨床実習
7回	臨床実習	19回	臨床実習
8回	臨床実習	20回	臨床実習
9回	臨床実習	21回	臨床実習
10回	臨床実習	22回	臨床実習
11回	臨床実習	23回	臨床実習
12回	臨床実習		

2022 年度　［ 分　野 ］　専　門　／ はり・きゅう実技（臨床実習含む）

［授業科目］ **臨　床　実　習　Ⅳ**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	原　オサム	単位数	1	時間数	45
実務/資格	豊富な治療経験を持ち、はり師・きゅう師の資格を有する教員が附属鍼灸院で診療録の作成から治療までを指導する。				
開講学期	前　期	---	授業形態	---	実　習

［授業目標］

鍼灸臨床の実践を通して医療面接、理学検査、鑑別診断、病態把握、鍼灸治療法（現代医学的・東洋医学的な鍼灸を中心に）、診療録作成などの基本的な臨床能力及び鍼灸院での業務を身につけることを目標とする。

［評価方法］

実技評価およびレポートにより評価する。

［教科書］	［参考書］
東洋医学概論・東洋医学臨床論（はりきゅう編）・新版経絡経穴概論＜医道の日本社＞	特になし

授業計画　;回数/講義内容

1回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	13回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
2回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	14回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
3回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	15回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
4回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	16回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
5回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	17回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
6回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	18回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
7回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	19回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
8回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	20回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
9回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	21回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
10回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	22回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
11回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）	23回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）
12回	臨床実習（附属鍼灸院で実施）		

2022 年度　　［ 分　野 ］ 専　門　　／ 総合領域

［授業科目］

基礎医学総合講座　Ⅰ

3 学年

［基本情報］

担当教員	木原　和彦	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師、柔道整復師、の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後　期	授業形態	講　義	---

［授業目標］

基礎医学総合講座Ⅰでは、解剖学Ⅰ－Ⅴまでの人体の基本構造および構成要素について、再復習するだけでなく、その構造や形態が形成される過程に存在する法則について発生学的な知識を交えながら臨床医学及び東洋医学に役立つよう理解を深める。

［評価方法］

国試受験認定試験と卒業試験の成績と授業への参加度を基準として、総合的な評価を行う。

［教科書］

解剖学　第 2 版　社団法人東洋療法学校協会編　医歯薬出版

［履修の条件・留意点］

1. 平素の授業態度（机上の飲食物、携帯の使用、着信音など）により単位未修得となることがあるので留意のこと
2. 遅刻又は欠席で、減点されるので留意のこと

授業計画　；回数/講義内容

1回	内分泌総論の要点/理解度確認	11回	骨概論・脊柱の要点/理解度確認
2回	内分泌各論の要点/理解度確認	12回	胸郭、上肢骨の要点/理解度確認
3回	神経系（脊髄）の要点/理解度確認	13回	下肢骨の要点/理解度確認
4回	神経系（脳）の要点/理解度確認	14回	頭蓋骨・関節の要点/理解度確認
5回	脳室系、伝導路の要点/理解度確認	15回	頭頸部の筋の要点/理解度確認
6回	脳神経の要点/理解度確認	16回	胸腹部・背部の筋の要点/理解度確認
7回	脊髄・自律神経の要点/理解度確認	17回	上肢の筋の要点/理解度確認
8回	感覚器系の要点/理解度確認	18回	下肢の筋の要点/理解度確認
9回	視覚の要点/理解度確認	19回	体表解剖の要点/理解度確認
10回	聴覚平衡器の要点/理解度確認	20回	総合確認問題の要点/理解度確認

2022 年度　　［ 分 野 ］ 専 門　　／ 総合領域

［授業科目］ **基礎医学総合講座 Ⅱ**　　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	宮森 美香	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

［授業目標］

・1,2年次に学習した生理学の総復習を行うことにより、個々の理解不足分野を確認することができる。
・正常な生体のメカニズムを理解することで生理学の知識を確実なものとし、疾病の理解へつなげることができる。
・生理学を体系的に学ぶことで国家試験にも対応できるようになる。
・国家試験では通過点として、臨床における生理学的判断を可能とする知識を習得することができる。

［評価方法］

国試受験認定試験と卒業試験において平均 60 点以上を取ることを基本に授業の参加度なども参考に総合評価により単位取得とする。

［教科書］

生理学　第3版

［履修の条件・留意点］

1. 講義要綱を確認し、教科書を読むなど予習をしたうえで授業を受けることが大切です。
2. 生理学ではポイントごとに覚えることも大切ですが、単元を超えた複合的な考え方も大切となります。
3. 授業の進行においては、板書とスライドを臨機応変に用います。各自必要なことはメモし、まとめること。

授業計画 ;回数/講義内容

1回	第 9 章　生殖、成長と老化（生殖器の機能）	11回	神経（末梢神経：自律神経）
2回	生殖、成長と老化（成長と老化）	12回	第 11 章　筋（骨格筋の構造と働き、筋収縮、各筋の種類）
3回	第 7 章　排泄（腎臓の働き、尿の生成）	13回	第 12 章　運動（骨格筋の神経支配）
4回	第 7 章　排泄（畜尿と排尿）	14回	運動（筋紡錘と腱紡錘の働き）
5回	第 10 章　神経（ニューロンの構造と働き、活動電位）	15回	運動（運動の調節）
6回	神経（伝導と伝達）	16回	第 13 章　感覚（一般感覚）
7回	神経（中枢神経：大脳）	17回	感覚（特殊感覚）
8回	神経（中枢神経：間脳・小脳・脳幹）	18回	第 15 章　身体活動の協調
9回	神経（中枢神経：脊髄）	19回	復　習①
10回	神経（末梢神経：脊髄神経・脳神経）	20回	復　習②

2022 年度　［ 分 野 ］ 専 門　／ 総合領域

［授業科目］ **基礎医学総合講座 Ⅲ**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	宮森 美香	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

［授業目標］

衛生学の第 10 章「消毒法」を中心に最終章の第 12 章まで修得したのち、国家試験問題や類似問題を解き、重要事項を修得する。

［評価方法］

後期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において 60 点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

［教科書］

「衛生学･公衆衛生学　第 2 版　（東洋療法学校協会編）」 医歯薬出版

［参考書］

特になし

授業計画　;回数/講義内容

1回	消毒法（定義、物理的消毒法）	11回	「保健統計」（おもな保健統計）
2回	消毒法（化学的消毒法）	12回	衛生学･問題演習
3回	消毒法（消毒の実際、医療廃棄物）	13回	衛生学･問題演習
4回	消毒法（消毒の実際、医療廃棄物）	14回	衛生学･問題演習
5回	「疫学」（特徴と意義、分類）	15回	衛生学･問題演習
6回	「疫学」（疾病の頻度の測定、症例対照研究）	16回	衛生学･問題演習
7回	「疫学」（コホート研究、実験疫学）	17回	衛生学･問題演習
8回	「保健統計」（意義、人工ピラミッド）	18回	衛生学･問題演習
9回	「保健統計」（意義、人工ピラミッド）	19回	衛生学･問題演習
10回	「保健統計」（おもな保健統計）	20回	衛生学･問題演習

2022 年度　［ 分 野 ］ 専 門　／ 総合領域

［授業科目］ **臨床医学総合講座**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	高野　弘仁	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師、柔道整復師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後　期	授業形態	講　義	---

［授業目標］

多くの疾患の成り立ちや特徴を把握して、疾患の鑑別と西洋医学的診断を修得する。そして、はり師きゅう師として卒後の臨床に繋げられる知識を修得する。

［評価方法］

前期/後期国試受験手続認定試験、卒業試験の全ての試験において毎回 60 点以上を取ることを基本に、総合試験、授業の出欠席なども参考に総合評価により単位取得とする。

［教科書］

東洋療法学校協会編 「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

［参考書］

医学教育出版「病態生理できった内科学」

［履修の条件・留意点］

2年次同様プリントを中心に授業を進行する。

授業計画 ；回数/講義内容

1回	その他の領域（皮膚科疾患）	11回	診察学2の要点/理解度確認
2回	その他の領域（眼科疾患）	12回	診察学3の要点/理解度確認
3回	その他の領域（耳鼻科疾患）	13回	診察学4の要点/理解度確認
4回	その他の領域（精神科疾患）	14回	診察学5の要点/理解度確認
5回	その他の領域（心療内科）	15回	臨床医学各論1の要点/理解度確認
6回	その他の領域　要点/理解度確認1	16回	臨床医学各論2の要点/理解度確認
7回	その他の領域　要点/理解度確認2	17回	臨床医学各論3の要点/理解度確認
8回	その他の領域　要点/理解度確認3	18回	臨床医学各論4の要点/理解度確認
9回	その他の領域　要点/理解度確認4	19回	臨床医学各論5の要点/理解度確認
10回	診察学1の要点/理解度確認	20回	総論・各論の要点/理解度確認

2022 年度　［ 分 野 ］ 専 門　／ 総合領域

［授業科目］ **東洋医学総合講座**　**3 学年**

［基本情報］

	岡野　亜希子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前　期	---	授業形態	講　義	---

［授業目標］

1 年次、2 年次に学んだ東洋医学の知識の再確認するために、東洋医学概論を教科書を中心としながら学んでいく。授業時間内において学んだ部分に対して小テストなどで知識の確認を行い、総合的な理解を深めることを目標とする。

［評価方法］

前期/後期国試受験手続認定試験、卒業試験の全ての試験において毎回 60 点以上を取ることを基本に、総合試験、授業の出欠席なども参考に総合評価により単位取得とする。

［教科書］

東洋療法学校協会編 「臨床医学各論」、「東洋医学臨床論」

［参考書］

必要な書籍を随時紹介していく。

［履修の条件・留意点］

2年次同様プリントを中心に授業を進行する。

授業計画 ；回数/講義内容

1回	気・陰陽・五行説	11回	診断論
2回	気の種類と作用	12回	診断論
3回	蔵　象	13回	八綱弁証
4回	蔵　象	14回	気血津液弁証
5回	蔵　象	15回	気血津液弁証
6回	蔵　象	16回	臓腑弁証
7回	蔵　象	17回	経絡病証・奇経八脈病証
8回	奇恒の腑	18回	経絡病証・奇経八脈病証
9回	病　因	19回	古代九鍼・刺法
10回	診断論	20回	禁忌・補瀉

2022 年度　［ 分 野 ］ 専 門　／ 臨床はり学・臨床きゅう学

［授業科目］ **総 合 経 絡 経 穴 学**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	岡野　亜希子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前　期	---	授業形態	講　義	---

［授業目標］

経絡経穴概論の総復習尾を行う。1 年次経絡ごとに名称・部位を学習し、2 年次は効能や筋肉などを学習した。総復習を 3 年時では行う。部位ごとに分けて、取り方・筋肉・神経・所属など様々な角度からもう一度経穴を学ぶ。

［評価方法］

前期/後期国試受験手続認定試験、卒業試験の全ての試験において毎回 60 点以上を取ることを基本に、総合試験、授業の出欠席なども参考に総合評価により単位取得とする。

［教科書］

東洋療法学校協会編 「経絡経穴概論」、「東洋医学概論」、「東洋医学臨床論」

［参考書］

随時紹介します。

［履修の条件・留意点］

この時間では、経絡ごとではなく、部位ごとに授業を進めていきます。毎回最初の 15 分を使い、復習問題にチャレンジしてもらいます。

授業計画 ；回数/講義内容

1回	出題傾向と流注	11回	肩
2回	骨度法	12回	胸腹部①
3回	要　穴①	13回	胸腹部②
4回	要　穴②	14回	頚
5回	手①	15回	頭 ・ 顔
6回	手②	16回	奇　穴
7回	足①	17回	奇経八脈
8回	足②	18回	諸説 ・ その他
9回	背　部①	19回	所属経穴と紛らわしい経穴
10回	背　部②	20回	まとめと解説

2022 年度　［ 分　野 ］ 専門基礎分野　/ 保健医療福祉とはり及びきゅうの理念

［授業科目］ **医　療　概　論**　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	前川　秀朗	単位数	1	時間数	20
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師、柔道整復師の教員が指導する。				
開講学期	前　期	---	授業形態	講　義	---

［授業目標］

「第2章　現代の医学と医療」を中心に、卒後に必要と思われる介護保険ついても詳細を追求して理解を深めてもらうことを授業目標とする。

［評価方法］

国試受験認定試験と前期末試験、卒業試験の成績と授業への参加度を基準として、総合的な評価を行う。

［教科書］

医歯薬出版「医療概論」

［参考書］

［履修の条件・留意点］

真摯な授業態度で受講して下さい。

授業計画　;回数/講義内容

1回	医療従事者と医療施設		
2回	医療従事者と医療施設		
3回	医療と医療経済		
4回	医療と医療経済		
5回	医療保険・介護保険概説		
6回	公的医療負担		
7回	医療倫理		
8回	医療倫理		
9回	介護保険詳説		
10回	まとめと解説		

［授業科目］ **社　会　は　き　学**　　**3 学年**

［基本情報］

担当教員	高野　弘仁/岡野　亜希子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師、柔道整復師の教員が指導する。				
開講学期	---	後　期	授業形態	講　義	---

［授業目標］

我が国での「はき師」の置かれている現況等を踏まえたうえでの、役割を中心に修めさせた後、具体的な施術所の経営展開を学び、独立開業権がある数少ない医療系職種である鍼灸の強みを実感させ、卒後の施術者人生に役立たせることを目標とする。

［評価方法］

後期末試験の成績と授業への参加度を基準として、総合的な評価を行う。

［教科書］

医道の日本社「社会あはき学」

［履修の条件・留意点］

真摯な授業態度で受講して下さい。

授業計画　;回数/講義内容

1回	日本の鍼灸の現況、社会的背景、我が国の医療制度医療従事者	11 回	QOL 向上におけるはき師の役割
2回	医療保険制度、介護保険制度	12 回	施術所の経営展開１＜施設設備、開設届＞
3回	社会保障制度下におけるはき治療とはき師の役割	13 回	施術所の経営展開２＜業務形態、資金＞
4回	施術所におけるはき施術、はき在宅施術	14 回	施術所の経営展開３＜広告、宣伝＞
5回	介護保険制度下での業務、併用するその他の業務	15 回	施術所の経営展開４＜施術に伴うリスク管理＞
6回	超高齢社会におけるはき師の役割	16 回	施術所の経営展開５＜行政手続き＞
7回	少子化社会におけるはき師の役割	17 回	施術所の経営展開６＜財務管理、記録管理＞
8回	女性の健康管理におけるはき師の役割	18 回	施術所の経営展開７＜賠償責任保険＞
9回	ストレス社会におけるはき師の役割	19 回	施術所の経営展開８＜療養費支給申請＞
10回	スポーツ傷害におけるはき師の役割	20 回	まとめと解説